

◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(10歳未満女性)(第19週追加報告分)ありました, 症状は腹痛等で, 感染地域は不明です。本年の累積報告数は6例となりました。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については, 下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- 急性脳炎の報告が1例(10歳代女性)あり, 症状は痙攣・意識障害等です。感染地域及び感染経路は不明です。本年の累積報告数は3例となりました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症の報告が1例(80歳代男性)あり, 症状は肺炎・菌血症です。感染地域は国内で, 感染経路は不明です。本年の累積報告数は3例となりました。
- 梅毒の報告が3例(50歳代男性, 70歳代男性及び50歳代女性)ありました。感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は24例となりました。
- 百日咳の報告が1例(20歳代男性)(第19週追加報告分)あり, 症状は持続する咳・微熱です。感染地域は国内, 感染経路は不明です。本年の累積報告数は14例となりました。

◆ 今週のトピックス: <百日咳>

京都市の百日咳は第21週に1例の追加報告(第19週分)があり, 本年の累積報告数は14例となりました。全国では2,425例となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 9例(肺結核 2例, その他結核 5例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 96例(肺結核 49例, その他結核 14例, 潜在性結核感染者 33例)うち喀痰塗抹陽性 20例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 6例】
- 五類:急性脳炎 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- 五類:侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- 五類:梅毒 3例【1月以降の累積報告数 24例】
- 五類:百日咳 1例【1月以降の累積報告数 14例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

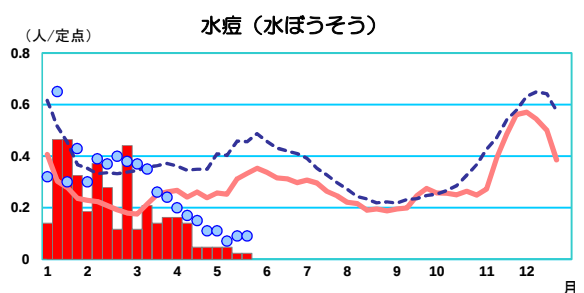
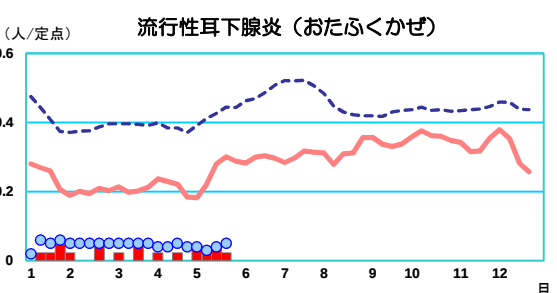
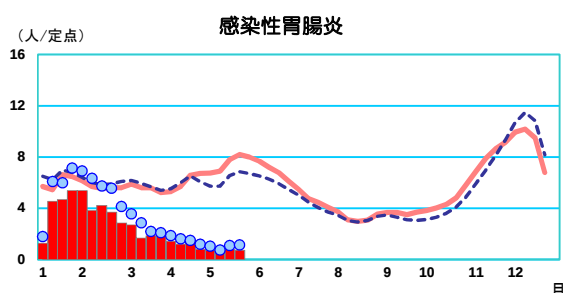
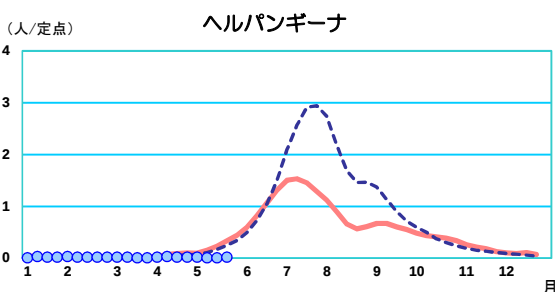
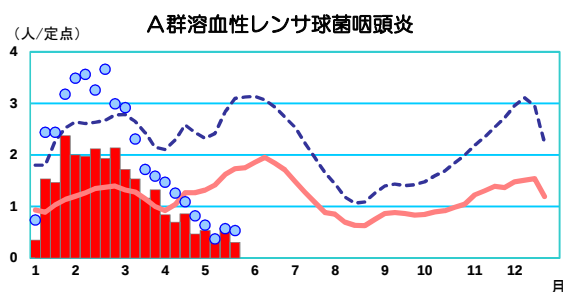
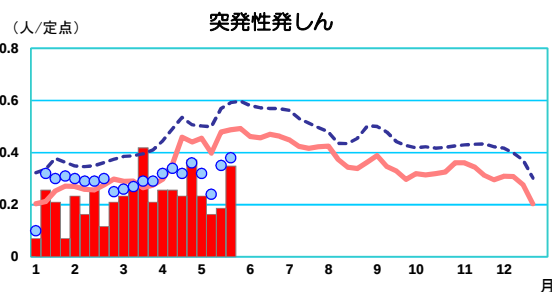
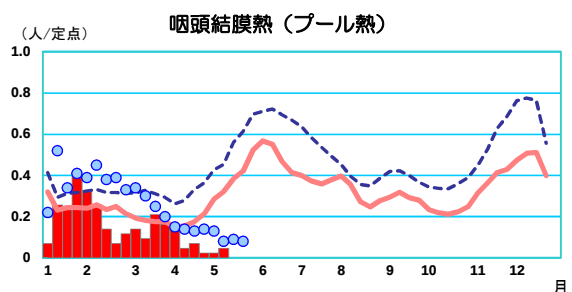
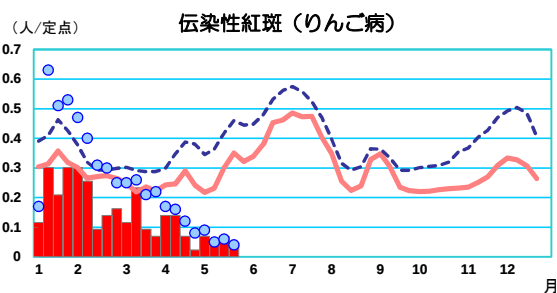
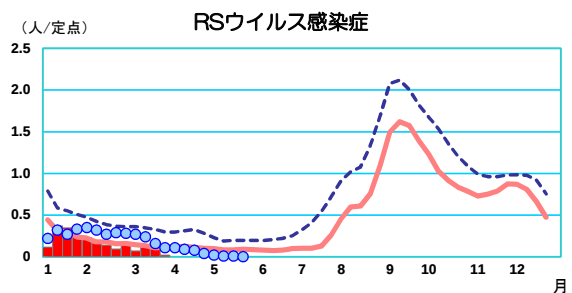
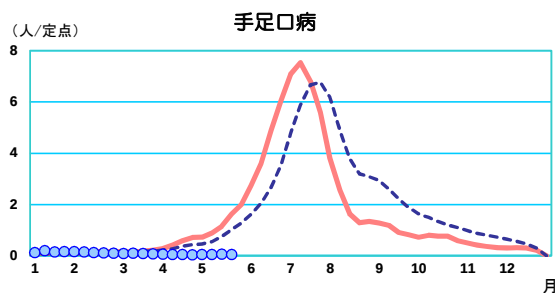
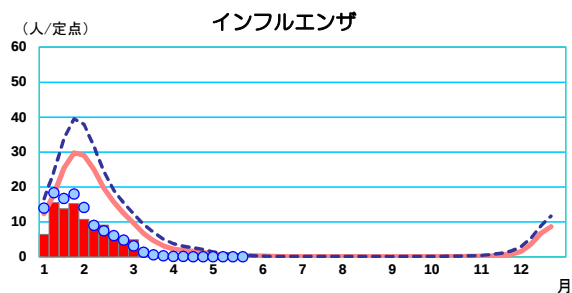
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	0.72	31
	② 突発性発しん	0.35	15
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.30	13
	④ 手足口病	0.12	5
	⑤ 伝染性紅斑	0.05	2
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

【次ページ以降の主な内容】

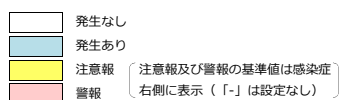
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <百日咳>

付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

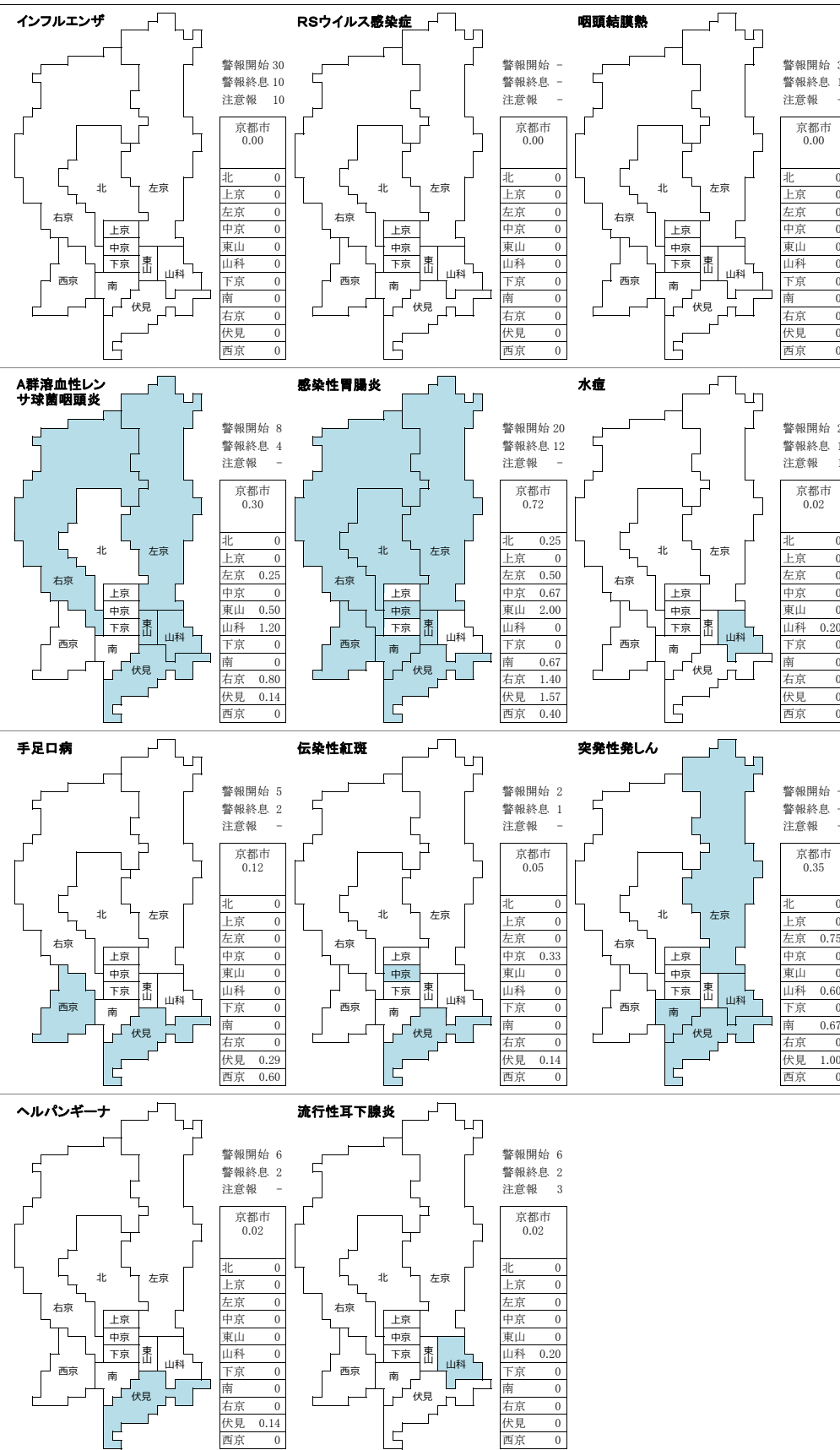
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2020年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図 【2020年 第21週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や
「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。」



第21週(5月18日～5月24日)トピックス: <百日咳>

京都市の百日咳は第21週に1例の追加報告(第19週分)があり、本年の累積報告数は14例となりました。全国では2,425例となっています(表1)。小児科定点疾患から全数把握疾患に変更された2018年以降の同時期の報告数は、京都市で2018年に9例、2019年は34例、全国ではそれぞれ1,739例及び6,247例でした。

2014年から2017年までの小児科定点からの報告推移は、京都市では7例から13例、全国ではおよそ1,700例から3,000例でした。全数把握疾患変更後は京都市で2018年に87例、2019年に113例、全国では12,115例及び16,846例となっています(表1及び図1)。報告の基準が大きく変更になったため単純な比較が適当とは言えませんが、全数把握となり、これまで十分把握できていなかったとされる報告が寄せられるようになりました。

全数把握疾患変更後の、全国の年齢階級別割合を見ると、0歳及び1～4歳がそれぞれ約5%で合わせて約1割を占め、これに5～9歳を合わせた10歳未満で約45%と半数近くを占めています。一方、20歳～64歳で21.6%、65歳以上で3.5%と、小児科定点では把握しきれなかったとされる成人が25%程度報告されています(図2)。

本年は京都市、全国とも2018年より多いものの、2019年と比較すると少ない報告数で推移しています。特徴的なのは、2018年から2019年12月にかけて直線的に増加していた報告数が、本年に入ってから減少し始め、特に3月ごろから極端に少なくなり、累積グラフでみるとほぼ横ばいになっていることです(図3)。

この現象は、百日咳だけでなく、小児科定点把握疾患でもみられ、全ての感染症が過去5年平均と比較してかなり少ないか、RSウイルス感染症のように疾患によっては報告がほぼ無い状態が続いています(定点把握疾患推移については京都市感染症週報で公開しています)。各感染症の報告が減少した原因ははっきりとはわかりませんが、新型コロナウイルス感染症の影響で、手洗いなどの衛生行動が、これまでより感染症予防に有利に変化したことや、医療機関の受診行動が変わったことも一因として考えられます。

百日咳は、成人患者では症状が典型的でなく受診も遅れがちですが、百日咳菌は周囲への感染力が強く、症状が軽くても菌の排出があるため、成人患者が感染源になる場合があります。特に、生後2箇月からはじまる予防接種を、また受けていない新生児・乳児に対しては、周りの人が感染源にならないよう注意しましょう。短い咳が連続する、咳の後に息を吸うとき「ヒュー」と音がする、咳が長引くなどの自覚症状がある場合や、職場や家族など身近にそのような症状の人がいる場合には早めに受診しましょう。

表1 京都市及び全国の報告数の推移

	累積報告数	
	京都市	全国
2014	7	2,066
2015	13	2,675
2016	10	3,011
2017	8	1,661
定点把握から全数把握に変更		
2018	87	12,115
2019	113	16,846
2020(第21週迄)	14	2,425

図1 京都市と全国の累積報告数の推移

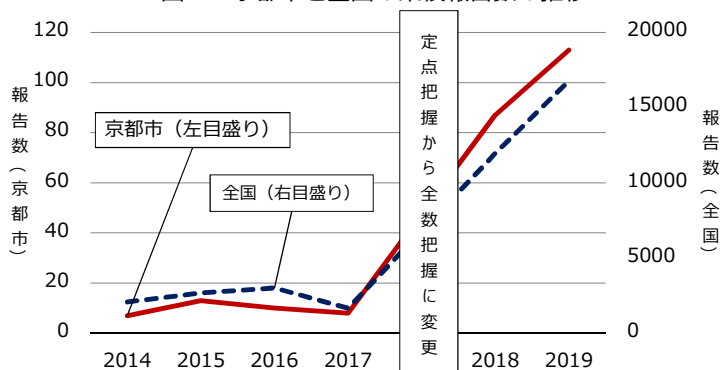


図2 全国の年齢階級別割合 (2018年～2020年第21週)

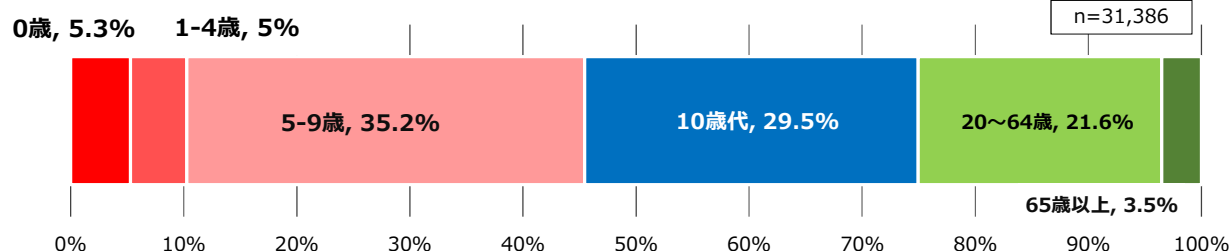
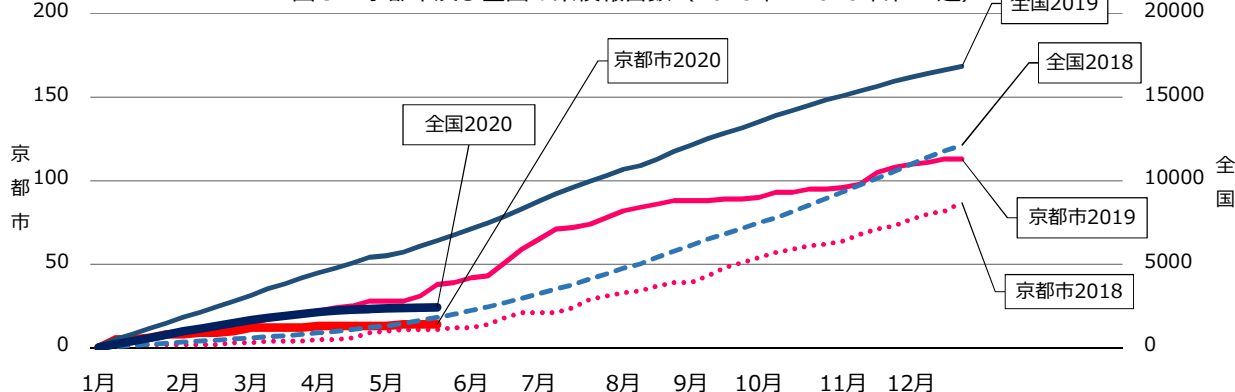


図3 京都市及び全国の累積報告数 (2018年～2020年第21週)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第21週

疾病,行政区別報告数

2020年5月18日～2020年5月24日

データ入手日:2020年5月27日

	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	1	2	-	-	-	3	-	-	-	-					
中京	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-							
山科	-	-	-	6	-	1	-	-	3	-	1	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-							
右京	-	-	-	4	7	-	-	-	-	-	-	-	-					
伏見	-	-	-	1	11	-	2	1	7	1	-	-	1					
西京	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-					
京都市計	-	-	-	13	31	1	5	2	15	1	1	-	1	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	-	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	0.25	0.50	-	-	-	0.75	-	-	-	-					
中京	-	-	-	-	0.67	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	0.50	2.00	-	-	-	-	-	-							
山科	-	-	-	1.20	-	0.20	-	-	0.60	-	0.20	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	-	0.67	-	-	-	0.67	-	-							
右京	-	-	-	0.80	1.40	-	-	-	-	-	-	-	-					
伏見	-	-	-	0.14	1.57	-	0.29	0.14	1.00	0.14	-	-	0.50					
西京	-	-	-	-	0.40	-	0.60	-	-	-	-	-	-					
京都市計	-	-	-	0.30	0.72	0.02	0.12	0.05	0.35	0.02	0.02	-	0.10	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第21週

年齢階級, 疾病別報告数

2020年5月18日～2020年5月24日

データ入手日:2020年5月27日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		13	-	-	1	2	1	2	-	1	1	2	-	-	-	3						
感染性胃腸炎		31	-	3	5	4	1	-	3	-	-	1	2	6	-	6						
水痘		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-						
手足口病		5	-	2	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-						
伝染性紅斑		2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-						
突発性発しん		15	-	7	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-						
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-						
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.30	-	-	0.02	0.05	0.02	0.05	-	0.02	0.02	0.05	-	-	-	0.07						
感染性胃腸炎		0.72	-	0.07	0.12	0.09	0.02	-	0.07	-	-	0.02	0.05	0.14	-	0.14						
水痘		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-						
手足口病		0.12	-	0.05	0.02	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-						
伝染性紅斑		0.05	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-						
突発性発しん		0.35	-	0.16	0.16	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-						
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-						
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第21週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年5月27日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	2	2	1	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	3	1	1	2	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	20	23	17	25	13
感染性胃腸炎	64	35	30	25	34	31
水痘	2	2	2	2	1	1
手足口病	2	3	1	4	2	5
伝染性紅斑	3	1	3	2	3	2
突発性発しん	10	16	10	7	8	15
ヘルパンギーナ	-	1	-	-	-	1
流行性耳下腺炎	1	-	2	1	2	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	2	1	-	1	1
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	126	83	74	60	76	70

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.03	0.03	0.01	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	0.07	0.02	0.02	0.05	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.86	0.47	0.53	0.40	0.58	0.30
感染性胃腸炎	1.49	0.81	0.70	0.58	0.79	0.72
水痘	0.05	0.05	0.05	0.05	0.02	0.02
手足口病	0.05	0.07	0.02	0.09	0.05	0.12
伝染性紅斑	0.07	0.02	0.07	0.05	0.07	0.05
突発性発しん	0.23	0.37	0.23	0.16	0.19	0.35
ヘルパンギーナ	-	0.02	-	-	-	0.02
流行性耳下腺炎	0.02	-	0.05	0.02	0.05	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.20	0.20	0.10	-	0.10	0.10
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	3.07	2.07	1.79	1.40	1.84	1.70

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。